

## 令和4年度 第1回 三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日 時：令和4年8月22日（月）

10:00～11:00

会 場：三重県津庁舎 6階第61会議室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 議事

雲出川水系（指定区間）の河川整備計画について、以下のとおり議事を行った。

委員

- ・アンケートに関して、地域的な考察や表現をもう少しまとめると資料としてもわかりやすい。

事務局

わかりました。

委員

- ・今回の計画について、住民の方が納得されているのかどうか判断ができなかった。

事務局

今回計画への意見については、次回のアンケートで住民の方々の意見を確認します。

委員

- ・鳥類に関する記載について、冬の記録が全くない。年間を通じて、少なくとも3～4回は調査を実施しないと全体的な把握はできない。

事務局

今後、近隣で調査したデータも調べて、整理させていただきます。

委員

- ・田んぼが浸水するという計画について、所有者の方に事前に了解を得ているのか。

事務局

すべての所有者に了解を得てはいませんが、既に公表されている国の雲出川の河川整備計画でも浸水する計画となっています。

委員

- ・住民の意見は、水門と排水機場は是非つけてほしいという意見である。私のイメージでは水門と排水機場はセットになっている。今回の県の対策として、築堤・河道拡幅は書いてあるが、排水機場は書かれていない。基本方針との関連も含めて話を整理してほしい。

事務局

国の雲出川の整備計画では水門は設置されますが、赤川地区は湛水を許容する計画になってお

り、雲出川本川からあふれてきた水をポンプで戻すと下流に負荷をかけることになるため、今回の整備計画ではポンプの設置は計画していません。

委員

- ・整備効果について、雲出川本川のバックウォーターを考慮した現況の図と、本川の影響を考慮していない現況の図があるが、2つの現況河道に違いはあるのか。バックウォーターを考慮したほうをより現実的と考えて良いか。

事務局

2つの現況河道は同じものですが、計算条件が異なります。バックウォーターを考慮したほうがより現実的です。

委員

- ・整備効果の浸水図はどのようにして作成されているのか。流量ハイドログラフを決めて作成したシミュレーションなのか。

事務局

流量ハイドログラフを作成したうえでシミュレーションをしています。

委員

- ・雲出川の水位の条件毎に赤川の整備効果が確認できると良い。雲出川の水位が低い場合の、赤川のみ治水効果は確認しているか。

事務局

赤川単独の整備効果として、確率規模の低い雨に対して、県道が概ね 30cm 未満の冠水におさまって通行が可能である等の効果は確認しています。

委員

- ・次の住民アンケートでは、国と県の整備内容と効果がわかるような工夫をした方がよい。

事務局

ご指摘の点について、配慮してアンケートを作成します。

委員

- ・流域治水を想定した結果を示しているが、ピークになる前に貯留池などが満水となり、効果が発揮できない場合がある。計算結果のピークが下がっているのはどういう理由か。

事務局

開発で設置した洪水調整池がピークに効いていると考えています。

#### 4. 閉会